

「スポーツクラブの中の子どもたち」 (203号 1993. 1)

スミング8 少年野球8 少女ソフト6 サッカー5 テコンドー2 少林寺1 空手1 剣道1
(40人中、複数回答)

これほ私のクラス(5年生)でスポーツクラブに通う子どもの内訳であるが、クラスの半数以上の子どもが、地域や私設のスポーツクラブに通っている。今は行っていないくても過去に通っていた子どもの数を入れると35人が、スポーツクラブでの経験があり、まさに、子ども達の生活の中で、大きな位置を占めていることになる。

受験競争を煽りたて、子どもの遊び時間を蝕む学習塾が批判される一方で、スポーツクラブが脚光を浴びているが果して、そうなのか。子どもの心に及ぼす影響について批判的な目を向けることで私見を述べたい。

体育の中で気になること

近年、5、6年を二度受け持ち、体育の授業の中で起こるどうしても気になること、わからないことがあった。

- ・ どうして、運動のできる子どもは、勝ち負けにこだわり続けるのか？
- ・ どうして、運動のできる子どもは、そうでない子どもに対して容赦ないのか？

バスケットボールの試合を行えば、乱暴な言葉で相手をなじる。友達の失敗をきつい口調で責める。負けた原因をその子どものせいにする。審判に文句を言う。非難する側の多くは、クラスの中でも、「運動のできる子」と認められているが、この子ども達のスポーツ観が理解できず、このような場面に出くわした時、私はただ叱るだけだった。

学級会の時間に、クラスでソフトボールをした時、ひどい応援(非難)の仕方には驚いてしまった。相手チームの個人に対して、野次をとばす。それも、節をつけて応援歌(非難歌)にする。それを、どこで考えるのかと私が聞いた所、地域の少年野球で練習するという。しかも、わざわざ相手を非難する応援(非難)の練習の時間があるという。

野次や罵声に慣らすことが必要!?

そこで、私は土、日に行われている、試合の様子を見に行った。子ども達の言う通り、耳を塞ぎたくなるような野次や罵声が飛び交っている。その中で、試合をやっている子どもが信じられなかった。もっと信じられなかったのが、その試合を平気で見ている保護者の姿だった。子ども達は、自分たちの応援はおかしいと言う。しかし、監督の作戦だから仕方ないんだとも言う。

このような学校での様子を、地域の少年スポーツやスポーツクラブと結び付けて学級だよりに書いたところ、ある保護者から学期末懇談会で、少年野球の実情を聞き、次のような話を聞かせてもらった。「町内で定期的に行われている、指導者や保護者の会合の中でも、応援の仕方について疑問を持つ保護者がおり、『相手を攻撃するような応援の仕方はやめよう』という声がありました。しかし、他の郡市では、これが普通だし、子ども連を慣れさせておくことが必要だ。それに、どんな場面にも打ち勝てる精神力が必要なんだ。ということで、その保護者の意見は通りませんでした。」

勝敗観を子どもたちに

子どもの個々の性格の問題、体育の授業そのものに目を向けず、スポーツクラブと結び付け、批判するのは短絡的であるだろう。それに、そのスポーツクラブがどのような運営をしているのかも充分知りもせず、表面の現象を批判するのはおかしいかもしれない。しかし、子ども達は指導者の持ち駒ではないし、指導者のちょっとした配慮で、上記の問題は解消できる部分もある。勝利至上主義、根性主義、非科学的な鍛錬主義。スポーツクラブの持つこのようなマイナス面を打開するためにも、指導者に課せられた部分は大きい。そして、子ども達のスポーツ観の歪みがスポーツクラブから起因しているものなら、深刻に考えて行かなければならない問題であるし、また、私たち教師も、勝敗観をどのように子ども達に教えて行くべきなのかを考えなければならないのである。